

スクラム

東京清掃労働組合墨田支部機関紙
2008年1月4日(金)
第31号
教育宣伝部発行/教宣部長 岡崎広

謹賀新年



組合員の皆さん、明けましておめでとうございます。本年も組合員の労働条件・勤務条件の向上にむけて全力で取り組んでまいりますので、よろしくお願ひします。

さて、昨年、われわれにとって極めて重要な1年であったと振り返っているところでもあります。とりわけ、07賃金確定闘争は極めて厳しい内容での妥結結果とならざるを得ませんでした。

技能主任等の設置基準、また、事業関係の統一交渉に関わり、副区長会会長から踏み込んだ発言を得ることができたものの、退職手当支給率の改悪がされ、また何よりも、平均9%、最大で10.8%という大幅な給与削減がされました。現給保障とはいえ、このことにより、これからの清掃事業を担う30~40歳代の若い組合員の殆どが昇給延伸、昇給停止となり、昇格しない限りは救われない状況となってしまいました。しかも、当局は「国・他団体との均衡」や「総務省からの指摘」のみを根拠とし、我々、大都市東京で清掃事業に従事する職員の厳しい職場実態を何ら考慮しない、極めて不当な攻撃であったと考えています。

しかしこれは、本部交渉委員が全力で交渉を進め、また、組合員一丸となって大衆闘争を打抜き、あらゆる角度から取り巻く状況等を勘案し、中央委員会において断腸の思いで妥結の判断を行ったものであります。したがって、我々支部としては

今後の取り組みとして、一人でも多くの組合員を昇格させるため、技能主任や技能長の設置率を勝ち取っていく必要があります。今回の選考では、7名の合格者を勝ち取ったことから、次年度の技能主任配置率は33.3%となり、設置基準である“概ね4人に1人”は大きくクリアすることができましたが、引き続き取り組みを進めていかなければなりません。

一方、23区清掃事業は大きな転換期を迎えています。区長会は、統一交渉を一方的に拒否しながらも、サーマルリサイクルは全ての区で行うとし、今年度モデル実施、来年度は本格実施をすることを決定しました。

すでに報告していますとおり、現在、平成20年度作業計画策定交渉を鋭意行っているところですが、墨田区においても本年10月よりサーマルリサイクルを全区展開する考えです。しかし、分別について、白色トレイは別途回収するものの、廃プラ回収などは行わず、“まずサーマルありき”であり“燃やせばいい”との安易なものと言わざるを得ません。資源循環型社会構築を目指すのであれば、リサイクルできるものはリサイクルし、そのうえでやむを得ない品目のみを熱回収するのが、本来の姿であるはずですが。

提案された作業計画そのものは、基本的に今年度同様の策定基準値を用いていることから、20年度作業計画策定交渉の争点は「粗大ごみ収集・運搬等業務の民間委託」と考え、区担当中執を中心に全力で闘いを進めているところです。すでに環境担当部長に対して解明要求を行ったところではありますが、当局は全く撤回の意志を見せず、委託の考え方を改めようとしません。

申し込みから収集までを期間短縮し、住民サービスの向上とする趣旨ですが、それをなぜ委託で行わなければならないのか理解に苦しむところですし、本来まず直営での運営を検討すべきです。また、時には住民のお宅に入って引き出すこともあり、そういった意味では守秘義務を持った我々職員であるからこそ、住民も安心して任せてくれているはずですが、したがって、個人情報保護法の観点からも、粗大収集こそ直営で行うべきなのです。残された交渉期間は残りわずかとなっていますが、委託提案の白紙撤回へ向け、全力で交渉を進めていきたいと考えています。

この間の公務員バッシングや全国的な現業合理化攻撃のなか、たいへん厳しい状況下での闘わざるを得ませんが、われわれの生活と権利を守るため、執行部一丸となって取り組みを進めていきます。

今年一年、全組合員のパワーの結集のご協力と更なる団結をお願いし、年頭の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願ひいたします。

2008年1月4日

東京清掃労働組合墨田支部 執行委員長 山崎 富康